

多 度 津 町 経 済 動 向 調 査

《第1四半期(2021年4-6月) 調査結果》

1. 調査期間 令和3年6月1日～16日

2. 調査対象 会員37企業に調査票配布(回収企業31 回収率83.8%)

	製造	建設	卸・小売	サービス
調査対象	12	8	10	7
有効回答	12	6	8	5

3. 調査項目 今期(2021.4~6月)を基準に前年同期比、来期予測を今期比にて業況・売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員・資金繰りの項目について調査

※DI指数は、景況判断状況を表すもので増加・好転などの回答割合から減少、悪化などの回答割合を差し引きし、ゼロを基準としてプラス値で景気の上向き、マイナス値で景気の下向きを表す。

(仕入単価は下落-上昇、販売単価は上昇-下落、従業員は、不足-過剰の割合を差し引いて判断)

※調査項目の販売単価について2019年第1四半期調査より追加。

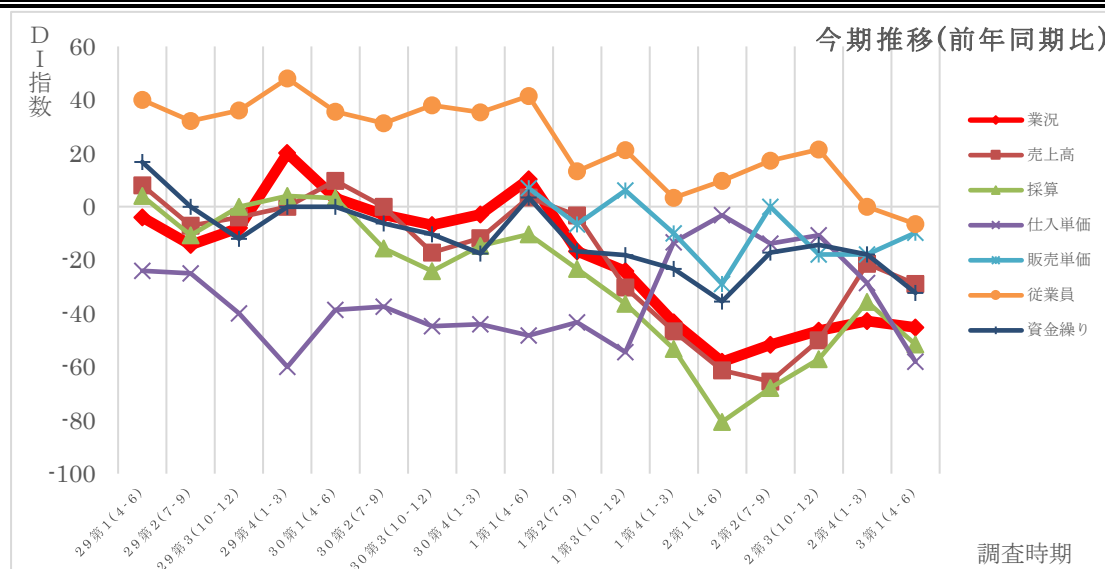
※業種分類を卸売、小売業を2020年第2四半期調査より統合。

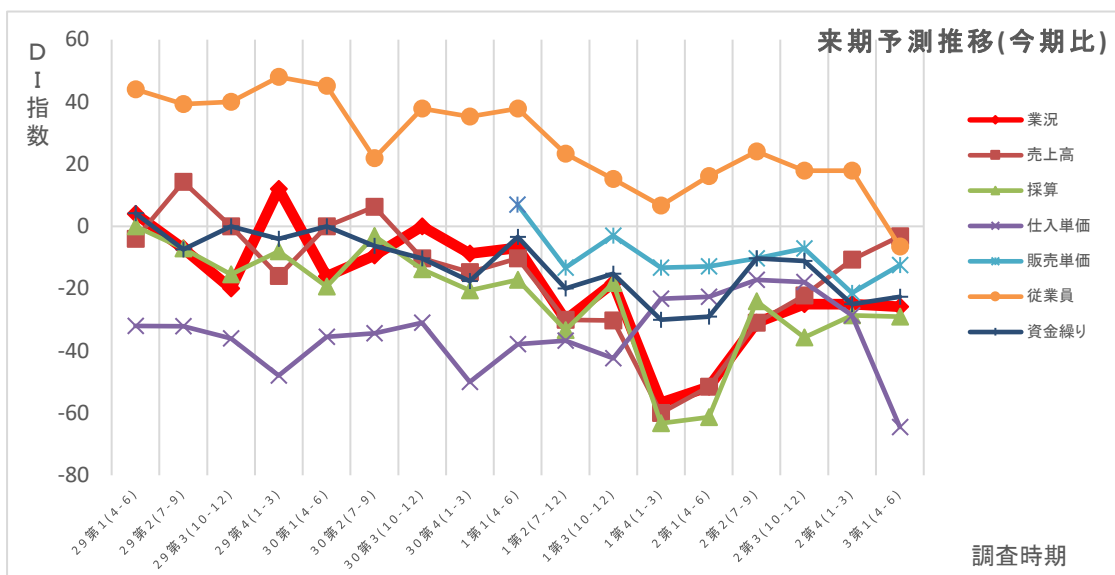
4. 全産業(DI指数分析)

業況はコロナの感染拡大、原材料、燃料の上昇の影響から4期ぶりに悪化 先行は不透明ながらコロナワクチン接種の進展からか改善を見込む

業況DI▲45.2(前期比-2.3[㊦]㇏)、売上高DI▲29.0(前期比-4.6[㊦]㇏)、採算DI▲51.6(前期比-15.9[㊦]㇏)、仕入単価DI▲58.1(前期比-29.5[㊦]㇏)、販売単価DI▲9.7(前期比+8.1[㊦]㇏)、従業員DI-6.5(前期比-6.5[㊦]㇏)、資金繰りDI▲32.3(前期比-14.4[㊦]㇏)。

先行きの見通し(来期予測)の業況DI▲25.8(今期比+19.4[㊦]㇏)。売上高DI▲3.2(今期比+25.8[㊦]㇏)、採算DI▲29.0(今期比+22.6[㊦]㇏)、仕入単価DI▲64.5(今期比-6.5[㊦]㇏)、販売単価DI▲12.5(今期比-2.8[㊦]㇏)、従業員DI▲6.5(今期比+0[㊦]㇏)、資金繰りDI▲22.6(今期比+9.7[㊦]㇏)の結果となった。



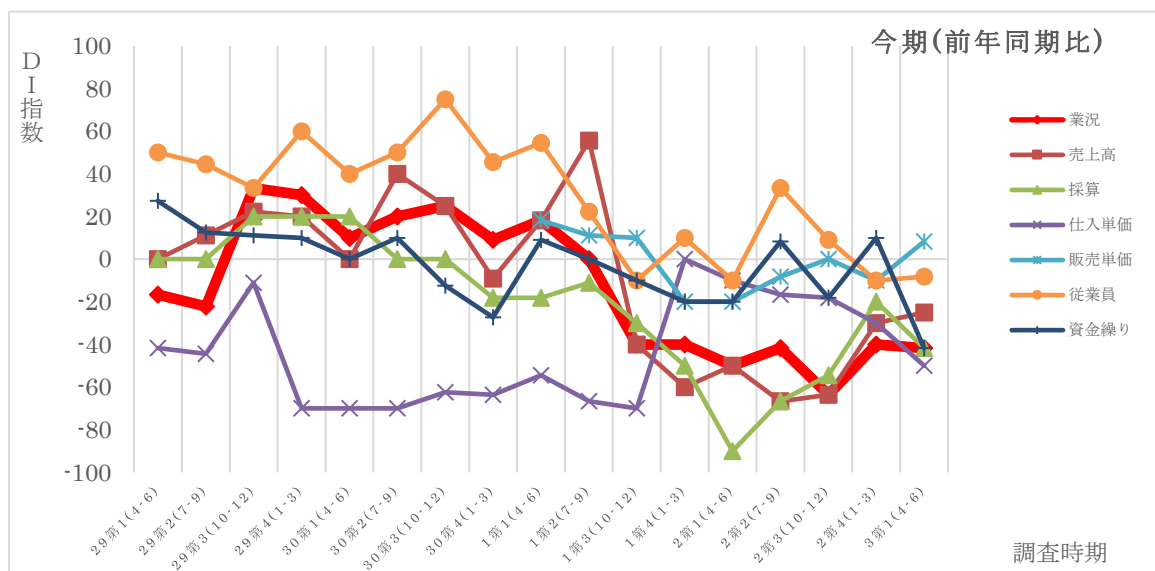


5. 業種別 (DI指数分析:前期比)

製造業↓ 業況DI▲41.7(前期比-1.7ポイント)。

売上高DI▲25.0(前期比+5.0ポイント)、採算DI▲41.7(前期比-21.7ポイント)、仕入単価DI▲50.0(前期比-20.0ポイント)、販売単価DI8.3(前期比+18.3ポイント)、従業員DI▲8.3(前期比+1.7ポイント)、資金繰りDI▲41.7(前期比-51.7ポイント)。

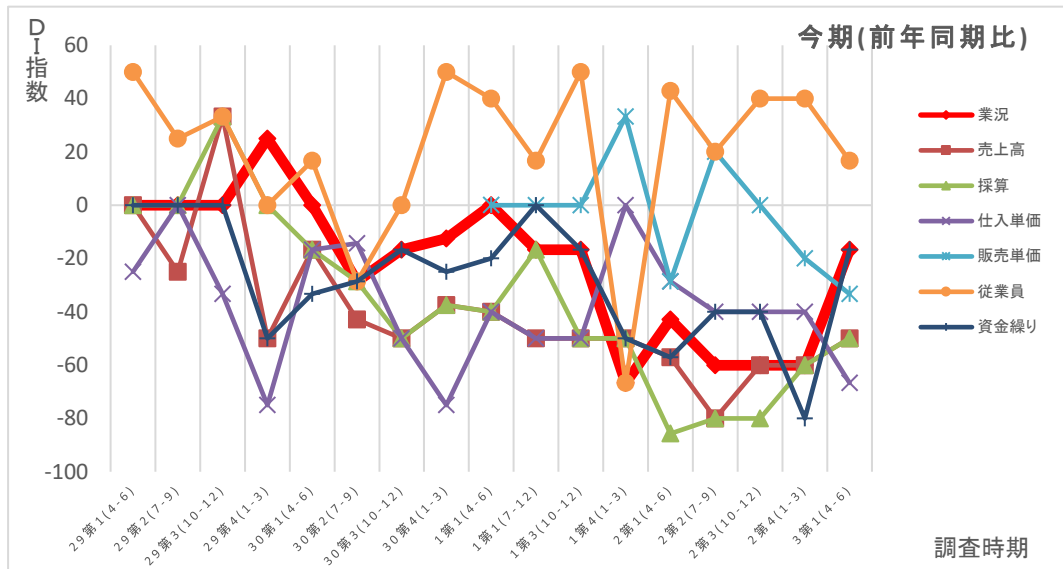
先行き(来期)見通し、業況DI▲25.0(今期比+16.7ポイント)改善を見込。



建設業↑ 業況DI▲16.7(前期比+43.3ポイント)。

売上高DI▲50.0(前期比+10.0ポイント)、採算DI▲50.0(前期比+10.0ポイント)、仕入単価DI▲66.7(前期比-26.7ポイント)、販売単価DI▲33.3(前期比-13.3ポイント)、従業員DI▲16.7(前期比-23.3ポイント)、資金繰りDI▲16.7(前期比+63.3ポイント)。

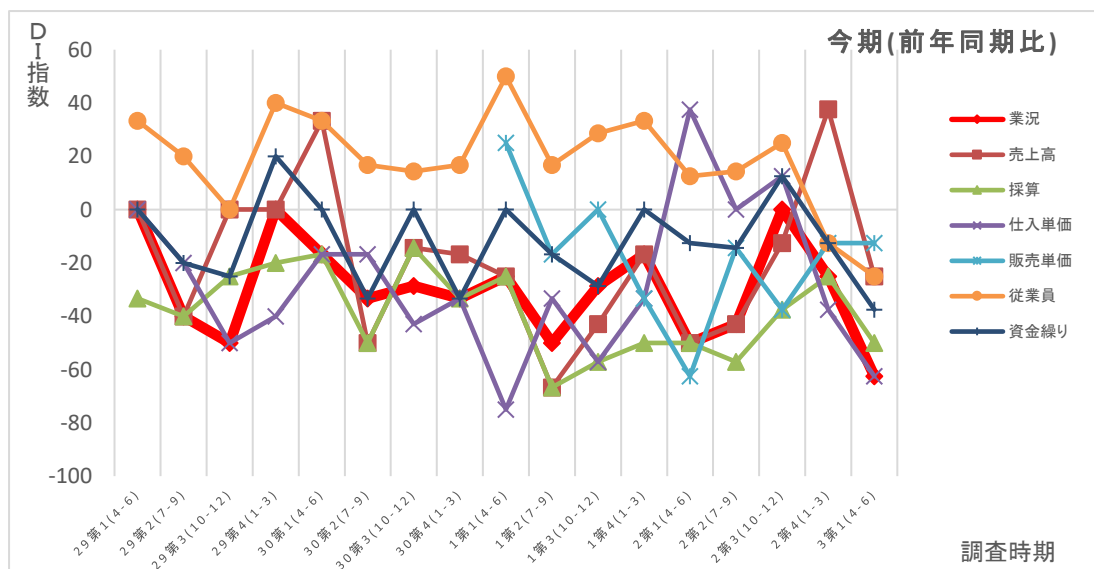
先行き(来期)見通し、業況はDI▲16.7(今期比+0.0ポイント)横ばいの見込。



卸・小売業↓ 業況DI▲62.5(前期比-37.5ポイント)。

売上高DI▲25.0(前期比-62.5ポイント)、採算DI▲50.0(前期比-25.0ポイント)、仕入単価DI▲62.5(前期比-25.0ポイント)、販売単価DI▲12.5(前期比+0.0ポイント)、従業員DI▲25.0(前期比-12.5ポイント)、資金繰りDI▲37.5(前期比-25.0ポイント)。

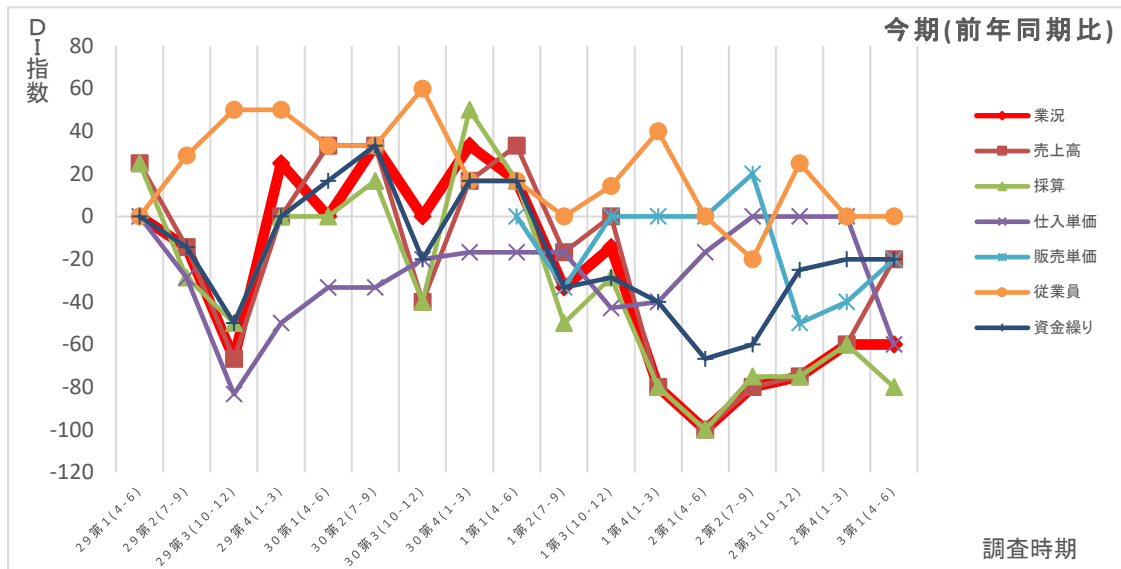
先行き(来期)見通し、業況DI▲37.5(今期比+25.0ポイント)と改善を見込。



サービス業→ 業況DI▲60.0(前期比+0ポイント)。

売上高DI▲20.0(前期比-40.0ポイント)、採算DI▲80.0(前期比-20.0ポイント)、仕入単価DI▲60.0(前期比-60.0ポイント)、販売単価DI▲20.0(前期比+20.0ポイント)、従業員DI0(前期比+0ポイント)、資金繰りDI▲20.0(前期比+0ポイント)。

先行き(来期)見通し、業況DI▲20.0(今期比+40.0ポイント)改善を見込。



【業況感等コメント】

- 日本人の採用が難しく、外国人の研修生、実習生が労働者を大半を占めるなかコロナの影響から帰国、入国が厳しく閑散期に入るが人員は充分足りている。将来的に管理職不足を懸念している。**(製造業)**
- 与信面に不安な取引先が増えている。**(製造業)**
- 新型コロナの影響は売上面では昨年程でないもののウッドショックの影響により仕入れ価格が高騰し数量の確保が困難になっている。このような状況により住宅着工も減少傾向となり売り上げを維持するには値上げを先延ばしにするしかない厳しい状況。年内回復は難しいと考える。**(製造業)**